

常滑の岡本太郎1952

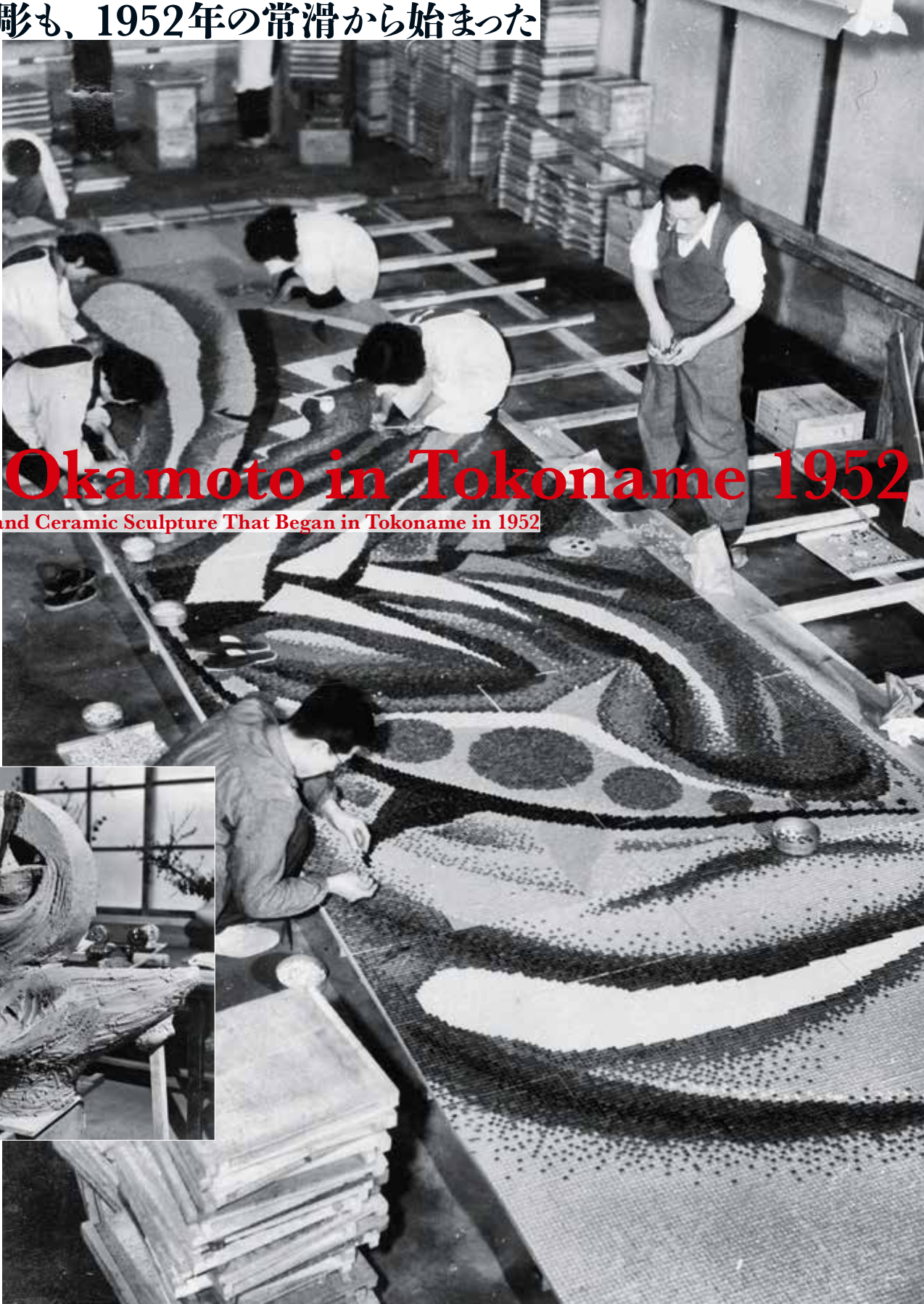
タイル画も陶彫も、1952年の常滑から始まった

January 14 - March 14, 2023

2023年1月14日(土) - 3月14日(火)

Taro Okamoto in Tokoname 1952

The Tile Murals and Ceramic Sculpture That Began in Tokoname in 1952



上
陶彫《顔》

右
タイル画《創生》の制作風景
いずれも、1952年 常滑・伊奈製陶にて
写真提供：川崎市岡本太郎美術館

主催 | INAXライブミュージアム
企画 | INAXライブミュージアム企画委員会
協力 | 公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団
川崎市岡本太郎美術館、高島屋史料館

デザイン=宗利淳一デザイン



INAXライブミュージアム

常滑の岡本太郎1952

タイル画も陶彫も、1952年の常滑から始まった

Taro Okamoto in Tokoname 1952

The Tile Murals and Ceramic Sculpture That Began in Tokoname in 1952

会期 | 2023年1月14日[土]～3月14日[火]

会場 | INAX ライブミュージアム「窯のある広場・資料館」2階

開館時間 | 10:00am～5:00pm (入館は4:30pmまで)

休館日 | 水曜日

共通入館料 | 一般: 700円、高・大学生: 500円、

小・中学生: 250円(税込、各種割引あり)

1952(昭和27)年は、岡本太郎とやきもの、そして常滑にとって特別な1年でした。

前年の51年、東京・世田谷にある自宅の風呂場や台所をタイル張りに改装したことが、タイル素材との出会いでした。翌年、油彩の画家として知られていた岡本が愛知・常滑を訪れ、工業製品の色鮮やかなモザイクタイルを使った絵画を制作し、主要な展覧会に次々と出展。観衆はもちろん当時の美術評論家にも驚きをもって迎えられ、話題となったできごとでした。

さらに東京・日本橋の高島屋の地下通路にモザイクタイルの巨大な壁画《創生》を制作し、誰もが日常で見られる芸術作品＝パブリックアートの先駆けの一つとなりました。

岡本にとって初となる本格的な立体作品を、やきもので手がけたのもこの年です。前年、東京国立博物館で縄文土器に出会い、衝撃を受けたことを「縄文土器論」として雑誌に発表した岡本は、18年後の大阪万博会場に完成する《太陽の塔》を彷彿とさせるような、両手を開いた人物像、陶彫《顔》を3体制作しました。うち一つは父・一平の墓標となっています。

本展では、常滑の伊奈製陶(現 LIXIL)でこれらの作品を制作した1952年に焦点をあててご紹介します。

The year 1952 was an important year for Taro Okamoto and ceramics, and for the town of Tokoname.

Okamoto had encountered ceramic tile in 1951 when he remodeled the bathroom and kitchen of his home in Setagaya, Tokyo. The next year Okamoto, although known as an oil painter, traveled to Tokoname to create works using colorful industrial mosaic tiles, which he then showed in major exhibitions. These works were quite surprising to his audience, both art critics and the general public, and Okamoto's new work began to attract attention.

A huge mosaic tile mural titled "Creation" by Okamoto was installed in the underground passage at Takashimaya Department Store in Nishimachi, Tokyo. This was a pioneering work of "public art" in Japan, exposing common people to art on a daily basis.

1952 was also the year in which Okamoto first applied himself to creating works of ceramic sculpture. The year before, he had been greatly impressed by Jomon earthenware at the Tokyo National Museum, publishing a magazine article called "Thoughts on Jomon Earthenware." In 1952 he created three works, each titled "Face." These were ceramic sculptures of human figures with their arms spread out, prescient of the "Tower of the Sun" he created 18 years later for the Osaka Expo. One of these works now marks the grave of Taro's father, Ipeei.

This exhibition focuses on the year 1952 in Okamoto's career, introducing works he created that year at the Ina Seito (present-day LIXIL) factory in Tokoname.



INAX ライブミュージアムへのアクセス

バス 名鉄線「常滑駅」または中部国際空港より、知多バス「知多半田駅」行き
「INAX ライブミュージアム前」下車徒歩2分
お車 (乗用車・バス駐車場完備)
名鉄線「常滑駅」より約6分
中部国際空港より約10分(「りんくうIC」降りる)
セントレアライン(名古屋方面から)「常滑IC」より約7分
知多半島道路「半田IC」より約15分

INAX ライブミュージアム

〒479-8586 愛知県常滑市奥栄町1-130
TEL. 0569-34-8282
FAX. 0569-34-8283
<http://livingculture.lixil.com/ilm/>



INAX ライブミュージアムはLIXILが運営する文化施設です。

新型コロナウイルス感染症予防対策について *マスクの着用、検温と手指消毒等にご協力ください。* 当館での新型コロナウイルス感染拡大防止策については公式ウェブサイトをご覧ください。* 状況により展覧会、イベント等の実施内容を変更・中止する場合があります。公式ウェブサイトにて最新情報をご確認ください。



左: 陶彫《顔》(個人蔵) / 右: 釉薬テストに用いられたマケット(試作)(奥は INAX ライブミュージアム蔵、手前は個人蔵) いずれも1952年



岡本太郎 《太陽の神話》の原画
1952年 個人蔵



色を合わせながら貼り板にタイルを置く岡本太郎
1952年 常滑・伊奈製陶にて 写真提供: 川崎市岡本太郎美術館

主な展示物

《顔》 | 《顔》の釉薬テストに用いられたマケット(試作) | 《太陽の神話》の原画 | 写真: 常滑での制作風景 | タイル画《太陽の神話》《創生》《ダンス》と陶彫《顔》に関する雑誌記事、伊奈製陶社内報、製品型録などの資料

関連情報

1.

愛知県美術館
「展覧会 岡本太郎」にちなんだ
スタンプラリーを開催



2.

とこなめ陶の森
「常滑の岡本太郎 1969」と題した
ミニ展示を開催

